

## 協和運輸倉庫 & イーコース

# 電動リフト 非常電源に

## 一般むけ実証デモ

【宮城】協和運輸倉庫(高橋大輔社長、仙台市宮城野



参加者に給電の状況を説明する菊竹社長(左端)

区)とイーコース(菊竹玉記社長、東京都中央区)は13日、仙台市で電動フォークリフトの電力を電気ストープなどの機器に供給する実証デモンストラーションを行った。

協和運輸倉庫は2021年、イーコースが手掛ける災害時の電源情報提供サービス「電源ドナー」を本社営業所などに導入。災害時に、通常の倉庫業務で使用している電動リフトを非常用電源として活用し、電力を無償提供する実証実験を両者連携で始めていた。

この日は本社営業所の敷地に用意したリフトと電気ストープや扇風機、電動ポット、人工呼吸器などを接続。それぞれが通常に稼働する状況を公開した。

女性の見学者は「東日本

大震災を経験し、電気のない生活が続いて大変苦労した。近くにこうした仕組みがあると安心」と感想を述べ、協和運輸倉庫の社員の一人は「最近では災害が多発しているので、この取り組みを通じて役に立てればうれしい」と強調した。イーコースの菊竹社長は「通常業務が大きな地域貢献になる。脱炭素が注目される中、荷主との差別化にもなるのでは」と話していた。

(今松大)